



JWRF

Japan Wheelchair Rugby Federation

日本車いすラグビー連盟

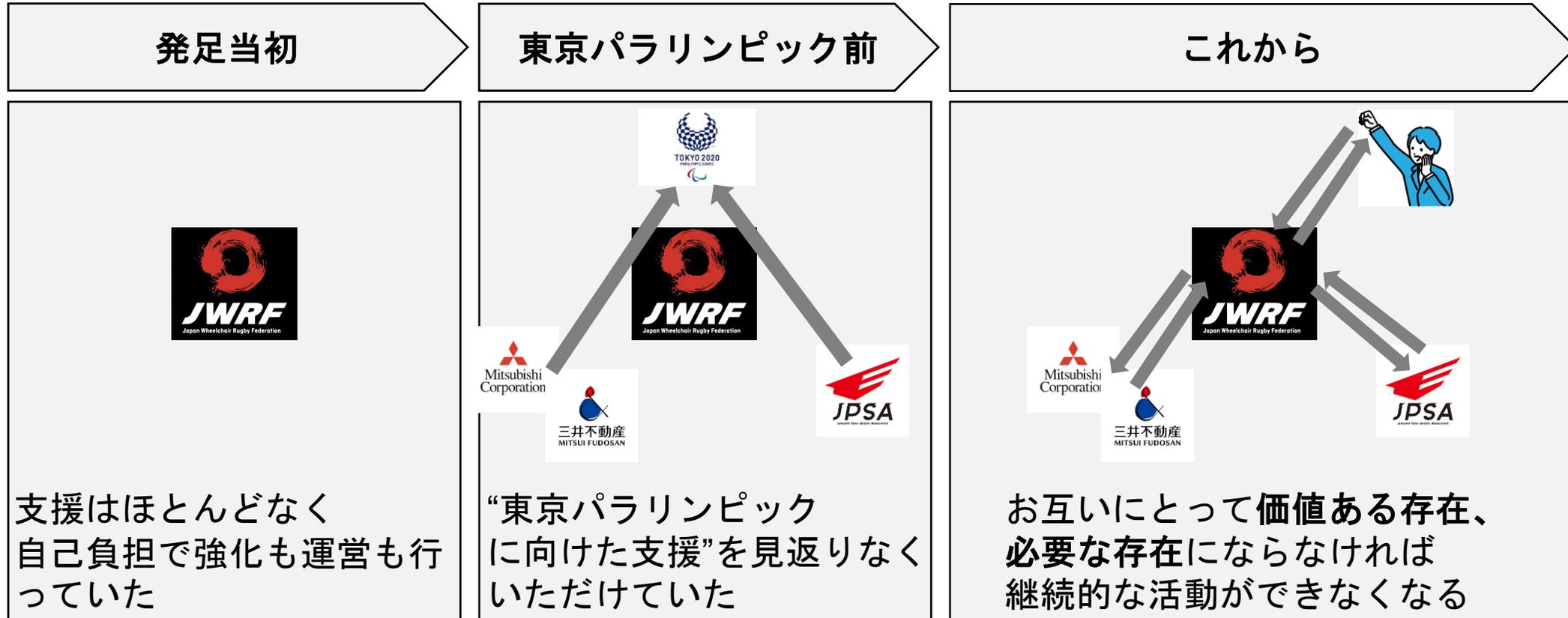
中期計画

2021-2024

中期計画目次

- 中期計画が必要な理由
- Missionとは？
- Missionの具体化（目指す状態）
- 目指す状態に対する目標
- 達成すべき数値目標

これまでと違い、競技活動を続けていくために社会にとって必要な存在にならないといけない



自分たち（＝連盟）の価値、目標を定めて、その実現のために活動していく計画が必要



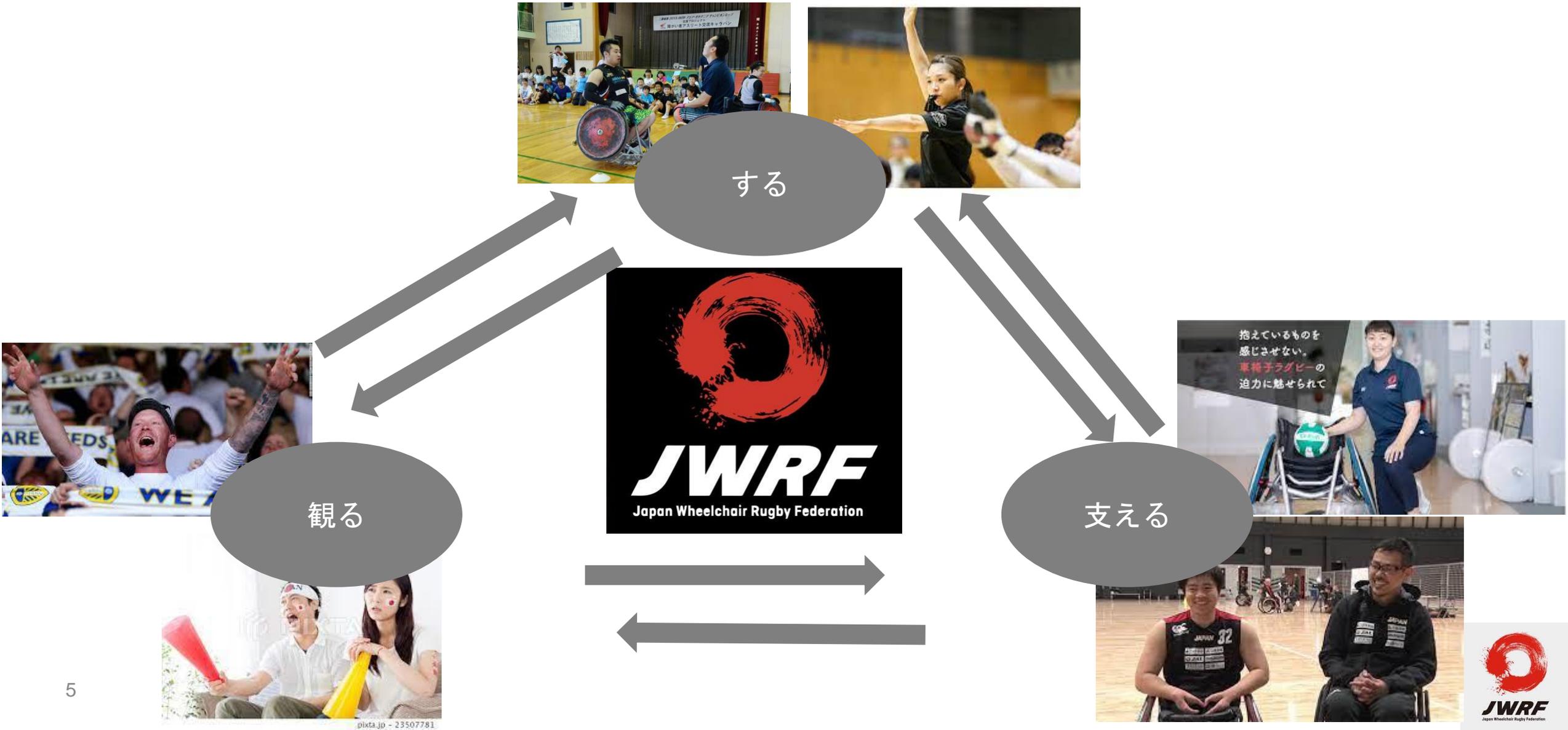
Mission

「車いすラグビーを通して、障がいがある人もない人も
分け隔てなく喜怒哀楽を共有できる瞬間を
数多く作り出し続ける」

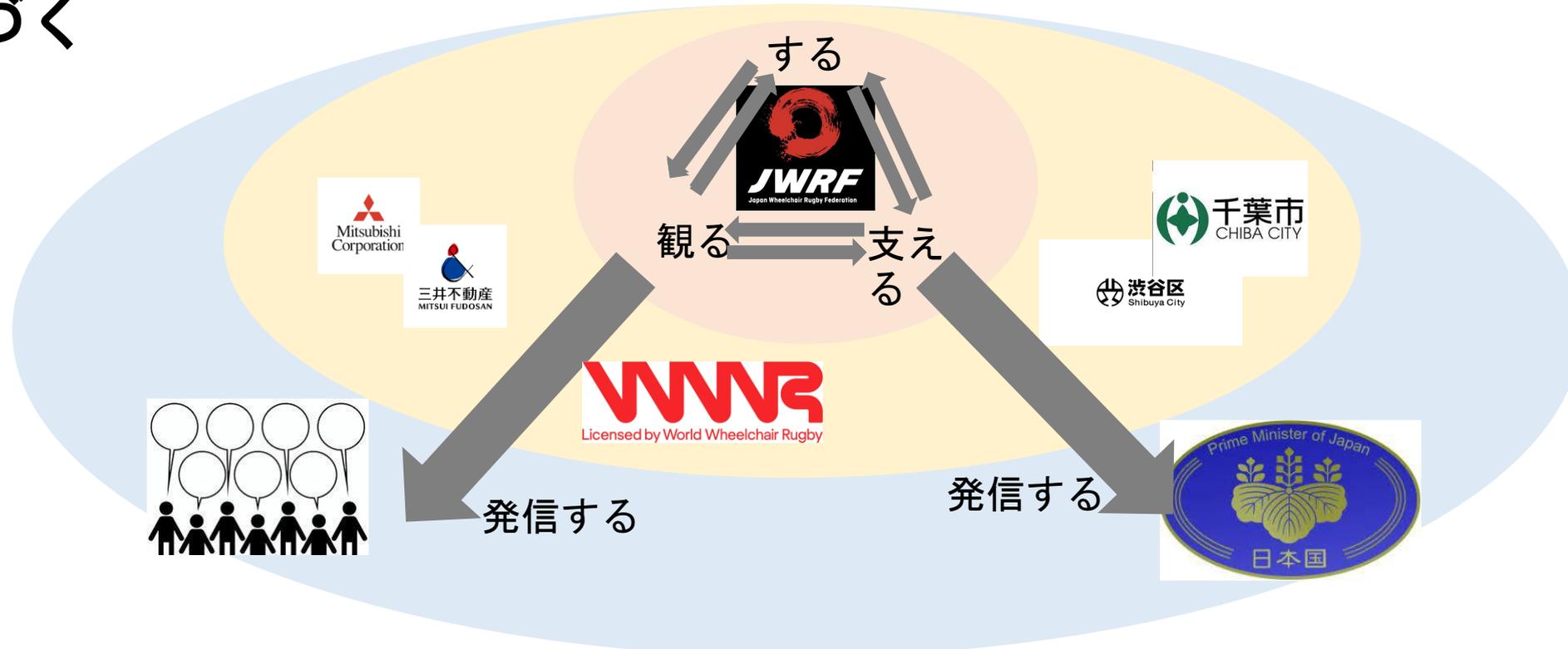


Missionの具体化（目指す状態）

“障がい者と健常者が分け隔てなく喜怒哀楽を共有できる瞬間を作り出す”存在の中心に連盟がいる必要がある



「障がい者と健常者が分け隔てなく喜怒哀楽を共有できる瞬間」をできるだけ数多く作り出すことが、世の中にとって必要となる存在に近づく



車いすラグビーが「障がい者と健常者が分け隔てなく喜怒哀楽を共有できる瞬間」を数多く作り出すこと
によってスポンサーや自治体といった関係者を巻き込み、

世論や社会にとって価値のある存在としてのパラスポーツ団体になることを目指す

⇒その状態を実現できているパラスポーツ団体は少なく、

6 その意味でパラスポーツを引っ張っていく存在を目指す必要がある

試合数/体験機会を増やすべく選手/スタッフ数を増やす

喜怒哀楽を共有できる場	①試合数の増加	②健常者参加ルールの設定	③日本代表の金メダル獲得
	選手,審判,スタッフ,参加者すべてが分け隔てなく喜怒哀楽を共有できる瞬間を増やしていく ・レベルの高い競技機会(選手/審判) ・試合に望める事前の練習環境	障がい者,健常者が同一空間で競技を楽しむことによって喜怒哀楽を共有できる瞬間を増やしていく ・お互いに感情を出せる環境 ・分け隔てなく共有できる環境	競技スポーツとして喜怒哀楽を共有できる最高の瞬間を目指すそして、憧れの存在となることを目標に代表として金メダルを目指す ・競技レベルとして喜怒哀楽を最も体現できる環境
現状課題	・選手数不足 ・特にハイポインター ・審判/TO不足	・健常者との本格的な接触には危険を伴う 現行ルール ・体験機会不足	※今回の東京2020大会のレビューが必要
目標	・選手数,審判,TOを倍増 ・公式試合数の倍増 ・クラブチーム主催大会の倍増 ・月に1度以上は車いすラグビー大会が行われる状態	・健常者参加ルールの設定 ・年1回以上の公式大会開催	・2022年世界選手権優勝 ・2024年パラリンピック優勝

国際試合の開催と日本代表の金メダルに挑戦する

	①国際試合の開催	②ファン人数の増加
なぜ喜怒哀楽を共有できるか	(WWRCで見られたように) 「国を応援する」状態が最も喜怒哀楽を共有できる場だと考えるため、定期的な国際試合の日本開催によりMissionを体現する	ファン人数を増やしていくことで喜怒哀楽を共有できる仲間、場を増やす。 その人数が多ければ多いほどより“世の中に必要とされる”存在に近づく
現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・(より喜怒哀楽を共有するための)演出ノウハウ不足 ・運営基盤不足 ・開催資金不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・発信力不足 ・企画力不足 ・上記を実現するノウハウ不足
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国際大会の定期的開催 ・有料観戦の実現 ・運営基盤の増加(支えるスポーツとマージ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大会来場者数の最大化(日本選手権満員) ・ファン母体の拡充(SNSなどでファン5万人以上) <p>⇒ファン5万人×来場率10%=5,000人イメージ</p>

運営制度と財務基盤を整えることで関わりやすい状態を目指す

	①運営制度の設計	②財務基盤の安定化
喜怒哀楽を共有できる場	<ul style="list-style-type: none"> ・ どうやったら関われるのか ・ どんなことをしたら関われるのか <p>が明確になっている状態（特にクラブチーム）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな事業チャレンジができるリソースが充分にある状態 	<p>中長期的な財政基盤が安定しており、“する”“観る”スポーツを実施することができる状態。</p>
現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラブチーム数不足 ・ 関わるスタッフ人数不足 ・ （国際大会開催など）へのリソース不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 助成金依存度が高い ・ スポンサー継続へのリスクがある
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車いすラグビーに関わる人数の増加 ・ ・ 車いすラグビーファミリー5,000人 ・ 国際大会開催に向けたノウハウ/リソース整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主財源の確保（スポンサー,クラウドファンディング） ・ ・ 年間2億円目標

Missionに基づいた発信を国内外問わず発信していく

	①発信力の強化	②国際的な地位向上
喜怒哀楽を共有できる場	<ul style="list-style-type: none"> ・ “喜怒哀楽を共有できる” スポーツとしての魅力を伝える ・ “障がい者と健常者が分け隔てなく” というパラスポーツの中でも独自性が高く、SDGsとの関わりも深いという魅力を伝える 	<p>審判,TO,クラシフィケーションなどWWR公認職域での日本人比率が上がっている状態</p> <p>WWR戦略策定,実行に対して日本として意見が発信できる状態</p> <p>アジアを牽引するリーダーとして、広く世界に発信できる状態</p>
現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自発的な露出数不足 ・ ・パラリンピックなどの機会がないと露出がない状態 ・ Missionに沿った露出ができていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際審判が少ない、パラリンピックは0名 ・ WWRへ働きかけができる人材不足 ・ 持続可能な形での選手・指導者・審判・クラシファイアなどの人材育成 ・ アジア地域の国同士による国際大会が少ない ・ アジア・オセアニア選手権出場国が増えていない
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競技認知度90%(パラスポーツとして最も高い状態) ・ ・スポーツ競技としての露出を増やす ・ ・(スポンサーや自治体と協力しながら)SDGsなどの文脈でも露出を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロサンゼルスパラリンピックへの国際審判派遣 ・ 国際クラスの審判員の複数名育成 ・ 国際クラシファイアの増員 ・ アジア地域での普及を牽引 <p>(※WWRへの関わり方は目標から議論)</p>

目指す状態の達成に必要な指標を定義し、KPIとする

Mission	Missionの整理	状態	目標	指標
車いすラグビーを通して、障がい者と健常者が分け隔てなく喜怒哀楽を共有できる瞬間を数多く作り出し続ける	する	国内試合数が十分にある	<ul style="list-style-type: none"> 公式試合数の倍増 クラブチーム主催大会の倍増 	<ul style="list-style-type: none"> 選手数倍増(200名) 審判,TOを増員(80名)
		健常者も同じルールで楽しめる	<ul style="list-style-type: none"> 公式ルールの設立 年1回以上の公式大会開催 	<ul style="list-style-type: none"> 車いすラグビー健常者混合チームの設立
		代表チームが金メダルを獲得する	<ul style="list-style-type: none"> 2022年世界選手権優勝 2024年パラリンピック優勝 	-
	観る	国際大会を日本で観戦できる	<ul style="list-style-type: none"> 国際大会の定期的開催 ・ 将来的な有料観戦 	<ul style="list-style-type: none"> SHIBUYA CUP開催
		ファン人数の増加	<ul style="list-style-type: none"> 日本選手権/SHIBUYA CUPにおける満員状態の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ファン母体の確立 ・ 想定ファン人数50,000人
	支える	誰でも関われる制度が整っている	<ul style="list-style-type: none"> 運営の安定 国際大会開催リソースの確保 	<ul style="list-style-type: none"> 車いすラグビーファミリー5,000人 大会運営マニュアルの整備
		財務的に逼迫されずに活動が行える	<ul style="list-style-type: none"> 年間予算5億円 	<ul style="list-style-type: none"> 自主財源2億円 ※現状1億円
	発信する	世間に喜怒哀楽を共有できるスポーツだと認知される	<ul style="list-style-type: none"> 競技認知度90% (パラスポーツとして最も高い状態) 	※サブ指標要検討中
		国際的な発言権を得る	<ul style="list-style-type: none"> ロスパラリンピックへの国際審判派遣 国際クラス審判員の育成 国際クラシファイアの増員 	-
		アジアを牽引するリーダー	<ul style="list-style-type: none"> アジア地域での普及を牽引 	<ul style="list-style-type: none"> アジアの発展途上国現地視察1ヵ国 WWR普及ワーキンググループ参加(1名)

まずは活動の土台を固めることを目指す

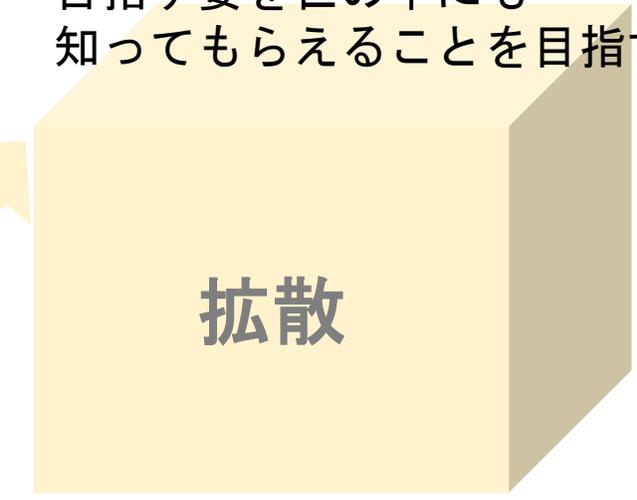
車いすラグビーに関わる人の
人数、運営を整備して、
今後新しいチャレンジをできる
ために組織の土台作りを固める



健常者混合大会や国際進出など
これまでにないチャレンジをす
ることによってより良い
Missionの実現を目指す



発信を強化することによって
車いすラグビー連盟として
目指す姿を世の中にも
知ってもらえることを目指す



時期	2022年～	2023年～	2024年～
注力活動	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすラグビーファミリー増加PJ ・自主財源確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・健常者混合大会の設定 ・国際への関わり方強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技認知度最大化
注力指標	<ul style="list-style-type: none"> ・選手数/審判/TO数増加 ・自主財源1.5億円 ・大会運営整理 ・世界選手権優勝 	<ul style="list-style-type: none"> ・健常者混合ルールの設定 ・国際審判数/クラシファイア数 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技認知度90% ・パリパラリンピック金メダル

以下、今後議論

具体的なアクションについては各委員会内で決めていきたい

目標	指標	担当委員会
<ul style="list-style-type: none"> 公式試合数の倍増 クラブチーム主催大会の倍増 	<ul style="list-style-type: none"> 選手数倍増(200名) 審判,TOを倍増(80名) 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会横断型選手数増加PJ 大会運営委員会 アスリート委員会 クラス分け委員会 医事委員会
<ul style="list-style-type: none"> 公式ルールの設立 年1回以上の公式大会開催 	<ul style="list-style-type: none"> 車いすラグビー健常者混合チームの設立 	<ul style="list-style-type: none"> 強化委員会
<ul style="list-style-type: none"> 2022年世界選手権優勝 2024年パラリンピック優勝 	-	<ul style="list-style-type: none"> 強化委員会
<ul style="list-style-type: none"> 国際大会の定期的開催 ・ 将来的な有料観戦 	<ul style="list-style-type: none"> SHIBUYA CUP開催 	<ul style="list-style-type: none"> 事業企画委員会 大会運営委員会
<ul style="list-style-type: none"> 日本選手権/SHIBUYA CUPにおける満員状態の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ファン母体の確立 ・ 想定ファン人数50,000人 	<ul style="list-style-type: none"> 事業企画委員会
<ul style="list-style-type: none"> クラブチーム数/運営の安定(スタッフの育成) 国際大会開催リソースの確保 	<ul style="list-style-type: none"> 車いすラグビーファミリー5,000人 大会運営マニュアルの整備 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局 クラス分け委員会 医事委員会 経営管理委員会
<ul style="list-style-type: none"> 年間予算5億円 	<ul style="list-style-type: none"> 自主財源2億円 ※現状1億円 	<ul style="list-style-type: none"> 事業企画委員会
<ul style="list-style-type: none"> 競技認知度90% (パラスポーツとして最も高い状態) 	<ul style="list-style-type: none"> ※サブ指標要検討中 	<ul style="list-style-type: none"> 事業企画委員会
<ul style="list-style-type: none"> パリパラリンピックへの国際審判派遣 国際クラシファイアの増員 	-	<ul style="list-style-type: none"> 技術委員会 クラス分け委員会
<ul style="list-style-type: none"> アジア地域での普及を牽引 	<ul style="list-style-type: none"> アジアの発展途上国現地視察1ヵ国 WWR普及ワーキンググループ参加(1名) 	<ul style="list-style-type: none"> 強化委員会 国際部会